



備えること

9月1日は防災の日です。8月の連休前に九州で地震があり、1週間以内に南海トラフ地震が起こるとの予報が出されました。お盆週であり帰省等で出かける予定を立てていた方も多い時期と重なり、どのように動いていこうかと考えさせられた時だったと思います。花火大会やお祭りなどが中止されたところもあったようです。実際に「起こるかも」と言われると、日々の生活を続けていく中で備えるということの難しさを実感しました。どこかへすぐに避難は難しい中で、何ができるのか。言われていたのは基本の日々の備えをしていくことでした。避難時の持ち物の用意や動きの確認、備蓄の用意など。日頃からの備えの大切さを再確認しました。園でも今月は引き渡し訓練を行います。日頃からの、備えを改めて意識し行っていきたいと思います。

夏の暑さは9月になってもまだまだ続きそうです。暑すぎてしまうので熱中症対策のため、プール活動の時間を短くしながら行っています。幼児クラスの子が登園時「今日はプールやるんだよね」と登園するなり話していたり、体調の問題でプールに入れないう子が「やっぱりプールにはいりたくなくなっちゃった」と泣きだしていたり。それぞれのプールに対する思いをみると、時間が短くても、その中でたっぷりとその遊びの楽しさを感じているのだなと思います。“もっと” “たくさん” あることはもちろん良いですが、今ある中で、十分に楽しむことも大切にしていきたいなと思いました。

副主任 田中沙里

「気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたにはわからないからである」 マルコによる福音書 13章33節

<9月の予定>

- 5日(木) 誕生会
- 6日(金) 創立記念日
- 19日(木) 引き渡し訓練
- 26日(木) 全園児健診

【お願い】

☆食事の時間について

食事提供終了時間の30分前迄に登園できない場合は食事の提供ができません。

分園は11:30、本園は12:30迄です。また、園での怪我で通院があり、時間が過ぎる場合は通常メニューの提供ができないことがあります。

つぼみ組
(0歳児)

絵本との出会い

猛暑と言われた夏がすぎ、グンと成長した子どもたち。そんな子どもたちがワクワクするお部屋にすべく、絵本コーナーをつくりました☆ 常に子どもたちが手に取れるようにしたことで、1ページずつめくりながらじっくり見て楽しんだり、お気に入りの絵本を『よんで』と持ってきたりしています。小さかったお友だちもハイハイができるようになり、自分で絵本コーナーに行き、絵本を手取る姿があります。1人で楽しむもよし、数人で集って見てもよし、保育者が読む絵本を見るもよし。絵本を通して新しい関わりや楽しみが生まれています。今度はどんな絵本をみんなと見ようかとワクワクしている保育者です♥



「オリジナルソング...?」 もも組(1才児クラス)

歌が大好きなもも組の子どもたち! ♪♪
「ん〜ん♪」と鼻歌をうたう子どもや、「△ロ△ロ〜♪」と歌詞が聞きとれなからた曲などと歌ったりそれぞれが楽しんでます。他にも「ちょうちょ」の歌詞を全部バナナに替えて「バナナ バナナ バナナ バナナ〜♪」と歌ったり、誰にも真似できない不思議なメロディーで「いもむし ブーブン♪」と歌ったりする姿がありました。

最近では、子どもたちが自然と模倣びになつたり円になつたりしながら「じーじー」と虫の泣き声に似た大きな掛け声をする姿がよく見られます。月夜を振り上げて曲げたり伸ばしたりしながら力強く叫ぶ子どもたちの姿はまるで熱く盛り上がっているフェス会場のような感じです。なんとユニークな一場面でしたが、保育者も一緒になつてもも組のフェスに参加しています。

1才児クラス さくら組 カチコチ! フォンフォン! こおりあそび

みずあそびの時に氷あそびも一緒に楽しんでいるさ

- くら組。凍らせた水風船でよくあそんでいます。風船がパチンと割れば丸い氷が出てきます。割らずに溶かせば水風船特有のぷにょぷにょな触り心地に♪手に持った水風船を転がしてポヨンポヨンと跳ねていく様子を、
- 大笑いして喜んだり、毎回一つは氷をキープしてお椀に入れて、ゆっくりと溶かしきることを楽しんでいる子どももいます。氷あそびはすっかり定番になったようで水遊びの準備をしていると「こおりは?」「まるいのある?」と期待のまなざしで聞いてくる子どもたちです

すみれ組
(2歳児)

「青と赤を混ぜると紫になるよ」

水あそび中、魔法の粉(という名の食紅)を使って色水にするのがすみれぐみの流行です。ある日保育者が「何色を入れようかな」と呟くと「青と赤を混ぜると紫になるよ」とAさん。一瞬ほんとに...?というような静けさが生まれました。けれどそれを期待する子どもたち。

みんなが顔を寄せてタライを覗く中、言った通りに青と赤の食紅を混ぜると本当に紫に!

「おお!」と驚きの声があがりました。すると「次は黄色と赤!」「こっちは青と黄色!」と次々とリクエストが飛び交います。水を入れる容器によっても色の見え方が違うので「これは何色になるかな?」とまるで科学の実験を楽しんでいるようです。

たんぽぽ組
(2歳児)



「たべるってたのしいな♪」

ピーマン洗いのクッキングをしてから、子どもたちは野菜を食べることに興味津々！！ごはんのたびに「〇〇ちゃん、ピーマン食べられるよ！」「〇〇くん、おやさいぜんぶたべよ」と嬉しそうに話しています。(なんて言いながら食べてみたらやっぱり苦手だった、食べてみたらおいしくて完食しちゃった、などその時々で食べる量は違います。)更に、『ふらふらふーちゃんおたすけメニュー』『がんばれうんちくん』という紙芝居を読むのも大好き！！その物語に出てくる内容に合わせて「Aくん、目赤い？」「Kちゃんも目赤い？」と口々に保育者に聞き、「もりもり食べて、赤くなってきたね」なんて返すとともに得意げな表情になってうれしそうに食事をしている姿があります。

“完食すること”ではなく“食事を楽しむこと”を大切にしているので、無理に食べさせようとは思っていません。ただ、今まで苦手だったものも食べてみたらおいしかった、と完食することもあるので、紙芝居やクッキングを通していろいろな食材を楽しみ、食事が楽しい！おいしい！と思うことができるようになったらなと思っています♪

『ふらふらふーちゃんおたすけメニュー』…ふーちゃんは好き嫌いがいっぱい。全部いやだ、と食べないでいるうちに体がふらふらに…。お医者さんに行くと、瞼の裏をお医者さんが見てくれて、赤は元気な証拠！白はちょっぴり元気がないってこと、と教えてもらいました。その後、いろいろな食べ方をしてみて苦手な物を克服し、元気になる、というお話です。(子どもたちはこの、まぶたの裏が赤いと元気！という部分を抜粋して「目赤い？」と聞いています。)

【紙芝居】「ふらふらふーちゃん おたすけメニュー(2004) 作：宗方あゆむ 出版社：(株)教育画劇」

「がんばれうんちくん(2004) 作：はたよしこ 出版社：(株)教育画劇」



ほけん



はやり目というように、目にも感染症があります。流行性角結膜炎はアデノウイルス感染症のひとつで、目やにが出る、目が赤い、まぶたが腫れる、目に異物感がある、痛い、痒い、などの症状があります。アデノウイルスは感染力が非常に強く、目やにだけでなく涙からも接触感染をおこします。治癒するまでには2~3週間かかるため、症状がみられる場合は早めの受診をお勧めします。

アデノウイルスにはアルコール消毒が効きにくく、また予防接種もありません。予防には石鹸での手洗いが有効です。かかりやすく治りにくい病気なので、目の症状にはご注意ください。

おしよくじ

非常食の備えはできていますか？



9月1日は防災の日です。非常食には、水・米（アルファ米）・パン・缶づめ・ビスケット・チョコレートなどがあげられます。非常食としての備えも大切ですが、子どもが日常的に食べ慣れているお菓子なども賞味期限ごとに買い替えをしてストックしておきましょう。災害時には、子どもは環境の変化により精神的に不安定になるため、食べ慣れない非常食では心身を満たすことが難しいことも。食べ慣れたお菓子が心を癒し、命を救います。

保育園では、ローリングストック方法を取り、順次新しいものに変えながら非常食を用意しています。



☆準備するとよいもの

飲料水（1人1日3ℓ×3日分）・3日分の非常食・医薬品・懐中電灯・携帯ラジオ
・予備の電池・カセットコンロ・ガスボンベ・貴重品（現金・身分証明書・通帳、印鑑、保健証ほか）



お知らせ

今月のやまびこの投函は
ありませんでした。

ちゅうりっぷ組
(3歳児)

◆*◆*◆*◆*◆*◆*一緒に作って楽しさ倍増☆*◆*◆*◆*◆*◆*◆*

この頃、ブロックあそびがダイナミックになっており、大きく、立体的な作品づくりに拍車がかかっています。作っていく過程で、「一緒に作ろう!」「どうやって作るの?同じの作りたいなあ…」
「これも付けるのはどう?」と様々な会話が飛び交います。もちろん互いの意見がぶつかることもあります
が、自分の気持ちを伝えつつ、相手の気持ちも考えながらあそぶ姿は、成長を感じる場面でもあります。ブ
ロックあそびを通して培われる自由な発想力・想像力、また友だちと共有することで感じられる達成感や満
足感を、これからも存分に味わってほしいと思います!

◆◆*◆*◆*◆*◆*◆*◆*泳ぐのだ~いすき!*◆*◆*◆*◆*◆*◆*

プール開きから早 2 か月。当初に比べて見違えるほど水に慣れてきている子どもたち。「バタ足やりた
い!」「泳ぎたい!」「ワニ(ペンギン・アヒル)歩きたい!」と自分の“やりたい!”を言葉で伝えてく
れます。「アヒル歩きってどうやってできるかな?」などと一緒に考え、実際に身体を動かしながら行ってい
ます。様々な動物になりきって水中を進んだり、潜ったり、水中に沈んでいるお宝をゲットしたり…♪
プールあそびも残りわずか。これから先、どんな新しい“やりたい!”が出てくるのか…楽しみです!

ばら組
(4歳児)



夏だ! プールだ!

「きゃー! つめた~い」と寒さに少し身を震わせながら始まったプールですが、夏本番の暑さになると暑す
ぎて熱中度指数が危険になり、入れないという日も出てくる程に今年の夏は一段と暑かったですね!

プール開き直後はまだプールの水に慣れていない子どもが多く、フラフープの輪っかくぐりの時には「絶対に
顔を水に付けたくないぞ!」という固い意志が垣間見られましたが(笑)、プールに入る回数を重ねた今では“顔の半
分まで付けてやってみる!” “ゆっくりワニさん歩きで行けば顔は濡らさずにいける!” と子どもたちなりにそ
れぞれ挑戦や発見があった様です。またプールを習っていたり水が得意な子どもたちはみんなのお手本になっ
てみたり、「輪っかをくぐる」だけではなくオリジナル技“ローリング”を加えてやってみたり…という姿も見られ
ました。中でも滑り台は大人気です☆保育者も滑ってみましたが大抵のスピードがでます! はじめは保育者と手
を繋いで滑っていた子が「次は一人でも行けるかも!」と挑戦して滑れるようになった姿は嬉しかったです♪
プールを通して挑戦、発見、達成感、様々な体験をした子どもたちの成長を感じる夏となりました。



《おひさま文庫》 月と出あう

“子どもが空に浮かぶ月の存在に気がつき、
大人に指さして教えてくれる。これはなんて
すごいことなんだ”と 新米保育士の頃
涙が出る程感動しました。38万km先の天体と子どもが出あった
瞬間です。



「入はなぜ月を見るのでしょ」



「誰かが今私が見ている月を一緒に見ていると嬉しいながら
私は月を見上げてきた。皆そういう思いで月を見上げる
のではないかな」

TVドラマ(平安時代の物語)からそんなセリフが
聞こえてきました。



今年の中秋の名月(十五夜)は 9月17日(火)です。
ぜひ帰り道親子で月を見上げてみて下さいね。
そしてお月さまとっと仲良くなりたいた方はぜひ
おひさま文庫へいらして下さい。
お月さまの本をならべておまちしています。(樽本)



ゆり組
(5歳児)

☆ゆり組 OBAKE 部の軌跡☆

～真夏だ！ そうだ！ お化け屋敷だ！～

・はじまり・

ある時、Aさんからの「おばけやしきごっこが、したいの！みんなに、おはなししたいの！」という一言から物語は始まりました。集まりでみんなに相談し廃材やダンボールを使って、手作りお化けを製作することになりました。またAさんを後押しするように子どもたちから「あと、へやをくらくしないとね！」「くらいから、あるくときに、かいあと、かいちゅうでんとうをもたないと、まよっちゃうよね。」などとたくさんの意見が出ました。



👤 1回目 👤

ゆり組だけでやってみました。常にお化け役になっている子どももいれば、お客さん役を楽しむ姿もありました。そこへ4歳児のばら組の友だちが参加して盛り上がりも最高潮！楽しいお化け屋敷・・・になったかとおもいきや、その後の集まりで振り返りをすると「なんか、おばけをみて、わらってた。」「さいしょに、こわいおばけが、たくさんすぎて、こわがってくれなかった・・・。」と子どもたちなりに感じていたようでした。ここから2回目に向けて作戦会議が始まりました。「もっとこわがるように、こわいおばけは、さいごにしようよ！」「ダンボールで、おおきいおばけをつくって、みちにおいてみない？」「あかりをてらして、おいたら、おどろくんじゃない！」とさらに意見が飛び交い、熱を帯びていきました。



★2回目★

2歳児クラスを招待しました。BGMも追加して怖さも一気に倍増！またお化け役とお客さんの案内役に役割を分担し、暗い道でも迷わないようにしていました。1回目とは違い、いくつもの工夫と思考を凝らしている様子も見られ、子どもたちも満足そうにしている姿がありました。そして夕方の集まりでの振り返り。どんな意見が出るのかと、保育者も楽しみにしながら聞いていると「あるくみ

ちがせまくて、たいへんだったよね。もっとひろくしたいな～」「おばけが、かいちゅうでんとうをもってると、ばれちゃうから、おばけやくは、もたないようにしようよ！」と新たな課題が見つかったようで、次に向けて余念がない子どもたちです。



『動かないドール』



◎3回目◎

1歳児クラスと3歳児クラスを招待して行いました。お化け役のクオリティがさらに増し、座っている状態で体は動かさずに目だけで追うお化けやダンボールからタイミングよく飛び出すお化けなど、いつの間にか考えていたのかな～と保育者も驚きの連続でした。無事に終わって、子どもたちの表情にも安堵の姿があり、保育者が「あの座って目だけ動くお化けが、とっても怖かったみたいだよ。ダンボールから出るお化けや懐中電灯で照らしたお化けも驚いていたよ！」などと話を聞いている時の子どもたちの達成感に満ち溢れた表情がたまらなくかわいいのです。



Aさんの一言から始まったお化け屋敷ごっこ。たった1人の言葉が何人もの心を動かして、1つの形になっていく様子を、保育者も一緒に体験することができました！この軌跡をみんなが毎日の糧にしていけるよう、そしてこれからもゆり組がもっともっと成長していけるように私たちは全力でサポートしていきたいと思います。やりたいことに、とことん突き進んでいく子どもたち。次はどんなあそびに夢中になって世界が広がるのか、予想外な想像力や発想・展開する力に、わくわくさせられている日々が幸せだ～！

